

重度統合失調症患者の生活機能に及ぼす動物介在療法の効果

西舘陽子^{1)*}・北條 敬¹⁾・前田優子¹⁾・高橋千恵子¹⁾・伊藤綾子¹⁾・坂上 恵¹⁾・高橋加奈子¹⁾・手塚祐美子²⁾・石田賢哉²⁾・坂下智恵²⁾・大山博史²⁾

1) 社会医療法人松平病院

2) 青森県立保健大学健康科学部

The effects of animal-assisted therapy on social functions among inpatients with severe schizophrenia

NISHIDATE Yoko^{1)*}, HOJO Kei¹⁾, MAEDA Yuko¹⁾, TAKAHASHI Chieko¹⁾, ITO Ayako¹⁾, SAKAGAMI Megumi¹⁾, TAKAHASHI Kanako¹⁾, TEDUKA Yumiko²⁾, ISHIDA Kenya²⁾, SAKASHITA Tomoe²⁾, OYAMA Hirohumi²⁾

緒言

精神障害者を対象とした動物介在療法の効果を検討した研究は数少なく、なかでも重度の統合失調症患者を対象とした知見は非常に乏しい。本研究では、訓練犬による動物介在療法が重度の統合失調症者の生活機能に及ぼす効果を、コントロール群を設置しない前後比較デザインにより検討し、さらに、効果発現に関連する患者の特性を探索した。

方法

対象は、動物介在療法に6ヶ月以上参加した入院中の統合失調症患者のうち、全体的評定尺度 (Global Assessment of Functioning: GAF) が20～39の者とした (N = 32; 年齢 43 ± 13; 入院期間 [年] 6.3 ± 8.3)。動物介在療法の介入プログラムは、週1回、2時間実施された。評価項目は、社会適応機能尺度 (Social Adaptive Functioning Evaluation: SAFE)、精神科リハビリテーション行動評価尺度 (Rehabilitation Evaluation Hall and Baker: Rehab)、動物への態度、作業療法参加回数、および、作業活動レベルとし

た。

結果 / 考察

ベースライン時と介入開始6か月後における生活機能についてSAFEを用いて評価した結果、総得点および下位尺度の道具的な生活技能とセルフケア、衝動コントロールならびに社会機能の各得点に有意な改善がみられた ($p < 0.01$)。重回帰分析の結果、総得点が示す生活機能全般の変化は、ベースライン時の社会的活動性や社会生活の技能が低い者ほど改善が大きいたことが示された。動物介在療法は、重度統合失調症者の生活機能の障害に有効なリハビリテーションの一つであることが示唆される。

謝辞

本研究を行うにあたり、皆様より多大なるご協力をいただきました。ご多忙の中、快くご協力いただきましたドックガーデンスタッフの皆様、看護師の皆様、作業療法士の皆様に心より感謝申し上げます。

*連絡先：〒031-0813 青森県八戸市大字新井田字出口平17 社会医療法人 松平病院